



**Embargoed for release**  
**18:05 CET, January 16<sup>th</sup> 2020**

最新の研究では死に至る敗血症は従来の推定値の2倍になることが判明

敗血症に関する国際疾病負荷研究グループは貧しい国や子どもが最も影響を受けていると指摘

最新の研究が本日、ランセットの論文で発表され、現時点で最も包括的な推計では、敗血症やそれによる死亡の罹患率は驚くべき数字となることが示されました。これら罹患率は以前の推計の倍とされ、世界の20%の死が、この過少報告でありながら重症な病態である敗血症によると示されました。

米国ワシントン大学、ヘルスメトリクス・評価機構のクリスティナ・ラッド医師およびモウゼン・ナガヴィ博士らが率いた、敗血症に関する国際疾病負荷研究グループ(“The Global Burden of Sepsis study”)が年齢、性別、場所、敗血症をもたらした原因疾患に応じたこれらのデータを最初に発表しました。

この研究によると、2017年は全世界で4890万人の人々が敗血症に苦しみ、そのうち1100万人が死亡したと考えられています。この研究以前は、7カ国の高所得国における成人入院患者データの解析より、世界で毎年1940万人の敗血症患者が発生し、530万人が死亡するとされていました。

「今回の推計は以前のもの少なくとも2倍になり、おそらくこれは低・中所得国からのデータも含めたことによると思われる。」と、共著者であり、世界敗血症同盟の会長、ドイツのジェナおよびシャヒテ大学教授であるコンラド・ラインハート医師は言います。「敗血症は、サブサハラアフリカや、ポリネシア、ミラネシア、ミクロネシアを含むオセアニア、南部、東部、東南アジアといった、敗血症を予防、診断、治療したり、敗血症生存者(彼らは長期的な健康上の問題を抱えます)をケアする体制が十分に整っていないような地域で最も影響を及ぼしています。」

以前の研究と比し、今回の研究の最も大きな違いは2017年の敗血症患者の半数は小児、とりわけ新生児であった点だと彼は言います。

President  
**Konrad Reinhart**  
Vice President  
**Dennis Kredler**  
Vice President  
**Niranjan 'Tex' Kissoon**  
General Manager  
**Marvin Zick**

Executive Committee  
**Dennis Kredler, BE**  
**Emmanuel Nsutebu, AE**  
**Flavia Machado, BR**  
**Imrana Malik, US**  
**Konrad Reinhart, DE**  
**Luis Antonio Gorordo, MX**  
**Maha Aljuaid, SA**  
**Niranjan 'Tex' Kissoon, CA**  
**Ron Daniels, GB**  
**Simon Finfer, AU**

Founding Organizations  
**World Federation of Societies of Intensive and Critical Care Medicine**  
**World Federation of Pediatric Intensive and Critical Care Societies**  
**World Federation of Critical Care Nurses**  
**International Sepsis Forum**  
**Sepsis Alliance**

Contact  
**Konrad Reinhart**  
+49 30 450551419  
Konrad.Reinhart@charite.de

**Marvin Zick**  
+49 30 450551416  
Marvin.Zick@global-sepsis-alliance.org

Visitor Address  
Global Sepsis Alliance  
c/o Charité University Hospital  
Hindenburgdamm 27  
12203 Berlin  
Germany

We support  
**World Sepsis Day – September 13**  
worldsepsisday.org



「これらの結果は、特に影響の大きな地域において、新生児、小児、高齢者といった脆弱なグループに対する、ポリシーメーカー、臨床医、研究者の行動を促す必要性を示しています。」と、共著者であり、世界敗血症同盟の副会長、ブリティッシュコロンビア大学、同小児病院教授のニランジャン・テックス・キスーン医師は言います。「手洗いの実践、医療機器の衛生管理、必要最低限の投与期間といった抗微生物薬の適正使用、新しい抗微生物薬の開発といった、多くの費用対効果の高い対策が実施可能です。」

研究は1990年から2017年までの1億9百万人の死亡調査票を確認し、敗血症に関連する282の原因疾患を調査しました。また、年齢、性別、地域、原因疾患、暦年に応じた、世界195の国・地域のデータを用いています。

全ての年齢、性別、地域、1990-2017年の暦年において、敗血症をもたらす最も頻度の高い原因疾患は、赤痢菌、大腸菌や他の細菌性下痢といった下痢疾患でした。2017年におけるより頻度の高い疾患は、交通事故と関連した感染症や、妊婦や新生児といった周産期における合併症でした。

2017年のデータは、敗血症罹患率は男性より女性においてやや高く、早期の小児期や高齢者においてピークがあることを示しています。全ての年齢、性別、原因疾患において、1990年は全世界の87%、2017年は85%の敗血症が、低所得国や低中所得国で起きていると推計されました。

“blood poisoning（血液が毒に侵されること）”とも時に称される敗血症は、身体が感染症に反応し、臓器障害や臓器不全をもたらす、生命を脅かす病態です。敗血症は、早期には他の疾患としばしば混同され、症状や兆候の認識の遅れがすぐに多臓器不全をもたらし、最終的に死をきたしうるものです。敗血症は、抗微生物薬投与や他の治療の遅れが時間単位で致死率の上昇に關与するため、緊急の対処が必要です。

2017年5月、世界敗血症連盟とのパートナーシップのもと、敗血症は世界保健機関によって世界の優先事項として認知され、同総会において、世界中の国々が様々な対策を通じて敗血症の予防、治療、ケアに取り組んでいくことが採択されました。採択のなかで、世界保健機関は、患者安全に関する教育やトレーニングを通じて多くの敗血症が予防可能であることも触れています。



モハメド・アリからローマ教皇であったヨハネ・パウロ2世まで、数えられないほど多くの有名人も敗血症により命を落としています。

敗血症に関する国際疾病負荷研究グループはビル／メリンダ・ゲイツ財団、アメリカ国立衛生研究所、ピッツバーグ大学、ブリティッシュコロンビア大学によって資金援助を受けています。



## 国際疾病負荷研究グループによる敗血症研究 Q&A

### 敗血症とは何ですか？

敗血症とは、感染症により全身の炎症反応が引き起こされ、身体全体や臓器が障害される、生命の危険がある状態です。敗血症は、細菌、真菌、ウイルス、寄生虫といった多くの病原体によって引き起こされます。20-30%の敗血症が病院でのケアを受けるなかで合併症として起こるとされています。敗血症は、抗微生物薬の迅速かつ適切な投与、輸液、他の対策を講じないと死に至りうる状態です。敗血症生存者は、記憶障害、集中力欠如、持続する倦怠感といった長期的な身体や認知障害に苦しむ可能性があります。敗血症生存者は再入院するリスクも高いです。敗血症に関するさらなる情報は、[敗血症.com](http://敗血症.com)ご参照ください。

### 敗血症は予防可能ですか？

敗血症は予防可能です。世界保健機関は、少なくとも1100万人の死亡を引き起こすと推計される敗血症の大部分は、ワクチン、医療施設での感染予防管理、早期発見・治療により予防可能としています。

### 敗血症による影響にはどのようなものがありますか？

2020年発表の敗血症に関する国際疾病負荷の研究によると、2017年には世界中で4890万人の方が敗血症に苦しみ、1100万人が亡くなったとされています。それまでの研究では、敗血症患者、死亡者は、それぞれ1940万人、530万人と推計されていましたが、それは7つの高所得国の成人入院患者のデータに基づくものでした。2019年の今回の研究では、低・中所得国が最も影響を受けていること、また、小児（特に新生児）や高齢者といった感染症に対する免疫反応が異なる人々に影響が大きいことが示されました。

今回のデータからは、2017年において、敗血症は男性より女性にやや多く発生したと考えられました。また、世界全体の85%の敗血症が低所得国や低中所得国で起きたと推計されました。敗血症の疾病負荷は、サブサハラアフリカや、ポリネシア、メラネシア、ミクロネシアを含むオセアニア、南部、東部、東南アジアに特に大きく認められました。

米国疾病予防管理センターによると、米国においては、敗血症により毎年240億米ドル以上の医療費がかかるとされています。2017年のヨーク医療経済コンソーシアムにおいては、英国では毎年156億英ポンドにも及ぶ経済的影響があると報告されています。



今回の研究ではカバーできていませんが、3800万人の敗血症生存者がもたらす影響を数値化するのは難しく、ただ、無視できるものではありません。多くの生存者は、患者自身や患者家族に影響をもたらすような身体・認知機能の障害に苦しんでいます。

### **なぜ今回の研究は重要なのでしょうか？**

今回の、敗血症に関する国際疾病負荷の研究は、様々な社会・人口統計学的インデックス（SDI）の国々からのデータに基づき、病院とコミュニティの両者において、年齢、性別、敗血症の原因疾患も考慮した初めての研究です。これまで、ランセット国際疾病負荷研究グループは、敗血症に関しては新生児敗血症のみを報告していました。今回の研究はより包括的なアプローチを行い、世界中の敗血症の様々な側面を考慮しています。同研究は、敗血症の患者数や死者は今までの2倍とし、全世界の死亡者数の20%が敗血症によると推計しています。

### **なぜ敗血症の患者数や死者は増加したのでしょうか？**

今までの研究との違いや、正確なデータを集めるために今なお続く困難には多くの要素が考えられます。最も重要なことは、今回の敗血症に関する国際疾病負荷の研究はそれまでの研究よりもより包括的であるという点です。同研究は1億9百万人の死亡調査票を確認し、敗血症に関連する282の原因疾患を調査しました。また、年齢、性別、地域、原因疾患、暦年を含む、世界195の国・地域のデータを用いています。しばしば、疾病はICDコードという、敗血症自体ではなくその原因疾患に関連するコードにより分類されています。これは、特にこれまでの研究においては、データの正確性に影響を及ぼしました。おそらく、敗血症による疾病負荷は研究期間においてある程度一定であるものの、近年の医師や医療関係者のほうが敗血症をより意識し、医療情報がより正確になっていると考えられます。

感染症や、ひいては敗血症を引き起こしうる様々な要素には環境や公衆衛生的な側面も含まれます。近年の気候変動は、直接的もしくは間接的に、とりわけ低・中所得国に大きな影響をもたらしました。自然災害に続く衛生環境、清潔な水への限られたアクセス、狭い地域での大規模な都市化などは、感染症の伝播や、敗血症を引き起こす感染症の発生に影響します。したがって、これらの問題に対し対策が不十分な地域において、敗血症はより大きな影響を及ぼします。

これらを踏まえ、国連の持続可能な開発目標（SDGs）により、敗血症は世界の公衆衛生や環境上の優先事項として認識されています。周産期や新





生児の死亡との関連も考慮すると、敗血症対策をすすめることは国連のSDGsターゲット3.1や3.2の達成に寄与します。また、敗血症は、それ自体はSDGsの指標でないものの、HIV、結核、マラリアや他のターゲット3.3に含まれる感染症に苦しむ患者の死にも関連します。

直接性はやや欠けるとはいえ、敗血症はSDG 3の他のターゲット（適切なワクチン対策、質の担保されたユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、国際保健規則に対応するキャパシティ、感染危機への備え、水・衛生）にも関連します。

### **国際敗血症連盟は今回の研究発表により何を期待していますか？**

国際敗血症連盟のビジョンは「敗血症のない世界」であり、予防、認知、治療、研究を通じてこのビジョンを達成できると考えます。今回の敗血症に関する国際疾病負荷の研究は、専門家、ステークホルダー、一般の方、さらに重要な対象としてポリシーメーカーの間で、敗血症に対する意識を向上することにつながります。我々は過去数年にわたり多くの進歩をとげてきましたが、まだ多くのことが残されています。我々は、世界中のポリシーメーカーが敗血症による公衆衛生上の疾病負荷を認識し、対策に資源を投じ、敗血症予防や治療に関する各国のナショナルプランの実施のために行動することを期待しています。また、敗血症対策のためのより良いデータ収集や意識啓発キャンペーンの継続も望んでいます。

### **今までに何がなされましたか？**

何年にもわたり、世界敗血症連盟やその他の組織、個人が敗血症に対する啓発や、適切な治療の実施のために貢献してきました。2012年、世界敗血症連盟は世界敗血症デーを定めました。毎年9月13日には、世界中で何百ものイベントが私たちやパートナーにより行われています。また、私たちは、敗血症対策に関わる専門家やステークホルダーを集め、世界敗血症会議や敗血症シンポジウムを開催しています。さらに、世界保健機関の推奨を実行していくためにポリシーメーカーとも仕事をしています。結果、2017年の世界保健機関の総会において、敗血症が重要議題として採択されました。同採択では、194の国連メンバー国・地域が敗血症による身体的、経済的負荷を軽減させるために適切な対策を講じるよう求めています。

### **何が行われるべきですか？**

政府や国際機関は、研究、意識啓発キャンペーン、医療施設での対策実施、敗血症生存者や家族のサポートのために資金や資源を投入すべきです。国連メンバー国・地域は国レベルでの包括的な対策を実施する責務があり



ます。欧州連合といった地域の主要組織は、感染症マネージメントのプログラムといった関連プログラムや、成功例の共有を通じて、このプロセスを促進できるはずです。加えて、世界保健機関はさらなる資源や人材を投入し、敗血症に注力すべきです。